

トライアングル

発行責任者 中山 雅雄
編集者 小松 真吾

<p>J R 東 労 組 No.103 通算4240号 上野支部</p>	<p>う え の u e n o</p>	<p>2018年 1月22日 発行 発行責任者 栗原 博幸 編集責任者 情 宣 部</p>
--	--------------------------	---

こんなやり方で本当に良いのか… (病弊=物事の内部にむすぶ弊害) 駅遠隔操作システムの“病弊”

普段から多くの対応、案内に苦勞している現場組合員…

TICKET のりこし
券売機・精算機の呼び出し対応…

STOP
列車停止時と復位…

「旅客トラブル」酔客や痴漢の対応…

車イスや目の不自由な乗客への乗降案内対応…

急病人対応

社会的な要求が求められる中で、
そもそも「遠隔操作」は心があるのでしょうか？

15年4月より、上野管内では「田端駅～尾久駅」間で「遠隔業務システム」が導入されています。会社施策として3年が経とうとしていますが、「何をやるのか」「何処までやるのか」「やってはダメなのか」曖昧なまま進んできました。そして、今では「声かけサポート運動」と称して「利用しているお客さま」にまで声かけや補助の協力要請をする、そんな社会の流れになってはいますが果たしてそれで良いのでしょうか？

～現場での意見～

- ・遠隔側の駅の状況もわからないのに、
(異常時の)案内放送なんて出来っこない！
- ・そもそも、「案内放送するなんて知らなかった！」
そして、いつの間にか「放送機器が設置」されていた。
- ・「前駅長」でさえ、「遠隔操作は出来ない」と言っていた。
- ・案内は「〇〇駅がやる」ということだったが、
結局は「ウチの駅」がやることになっている…。
- ・遠隔操作は「現実的ではない！」



やっぱり遠隔操作では、相互に「合わない！」世間に「なじまない！」
職場での問題点を出しあい「再度」議論を巻き起こそう！

全分会が検証運動を推し進めよう！

職場の課題が解決されない限り新しい施策は受けられない！
組合案の実現に向けて結集しよう！